

人権問題の解決に向けて

輝く未来(教材編)



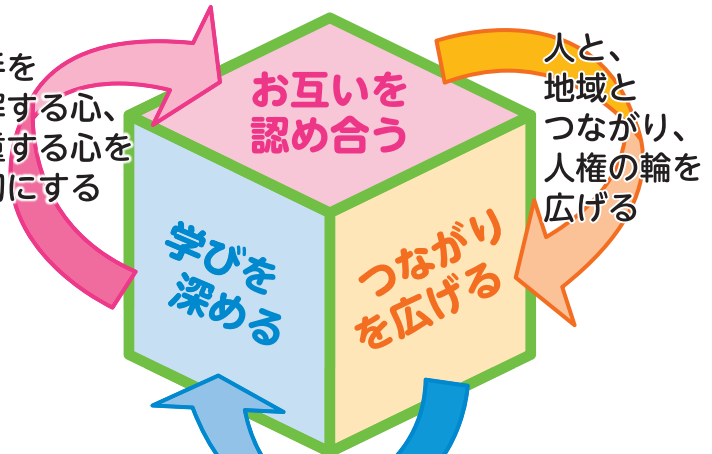
第五次輝く未来計画

2021-2025

栗東市では、「一人ひとりが互いの人権を尊重し合い、差別や偏見のない住みよいまち」をめざして、「第五次輝く未来計画」を「栗東市人権擁護に関する条例」のもと策定しました。

認め合おう お互いを
広げよう つながりを
深めよう 学びを

相手を
理解する心、
尊重する心を
大切にする



差別の現実を学び、
人権問題を正しく理解する

めざす姿



一人ひとりが互いの人権を尊重し合い、
差別や偏見のない住みよいまち



人権教育啓発の合言葉

一人ひとりがまず一步! 差別を「なくす」行動を!

『人権』ってなに？

「人権」とは、すべての人が生まれながらに持っている、自分らしく幸せに生きていくための大切な権利です。人権を尊重するということは、みんなが幸せに生きていくための権利を大切に扱うということです。

『人権』の考え方の始まりは？



17世紀のヨーロッパでは、国王が権力を握っていて民衆の自由や権利は守られていなかったんだよ。

だから民衆の不満が高まってきて徐々に「人権」という考え方が浸透してきたんだね。



18世紀の終わりに起きたフランス革命では、『人権宣言』が採択されたんだ。

第二次世界大戦後まもなく設立された国際連合によって1948年に採択された『世界人権宣言』は、すべての人が生まれながらに基本的人権をもっていることを、初めて公式に認めた宣言だね。



さまざまな人権問題

人権問題と聞いて、どのようなことが思い浮かぶでしょう。

例えば、女性や子ども、高齢者、障がい者、部落差別、外国人、性的マイノリティに対する人権問題などが思い浮かぶでしょうか。

最近では、インターネットによる人権侵害やさまざまなハラスメントなども問題視されるようになってきました。

これからますます日本社会の国際化、情報化、少子高齢化が進む中で、新たな人権課題が問題となってくるなど、人権問題の解決に向けたさまざまな取組がますます重要になってきます。



一人ひとりの『個性』を大切に

人にはそれぞれ「違い＝個性」があります。見た目や価値観など、一人ひとり違いがあるのは当たり前のことですが、時に私たちは「自分とは違う他人」にとまどったり避けてしまったりします。また、私たちの自分勝手な思い込みや固定観念などから差別や偏見が生まれてしまいます。

しかし、必要とされていない「個性」はなく、考え方や生き方に優劣もありません。人権を尊重するということは、自分とは違う他人を受け入れ、その他人が幸せに生きていくための権利を大切にすることです。



身近なところから人権を見直してみませんか？

家庭や職場、地域などで人とコミュニケーションをとることは人との関係を豊かなものにしてくれます。

しかし、何気ないコミュニケーションの中には、時に人権を無視したり差別的な意味合いが含まれていたりする言動があります。例えば、「年寄りには難しい」「女のくせに」「障がいがあってかわいそう」などです。

日常生活のあらゆる場面で、その人自身の人権感覚が現れます。相手の思いに立って、相手がその表現をどう感じているかを考えてみるのが大切です。



自分や人を大切にする、そんな生き方をめざしていきましょう。

考えよう

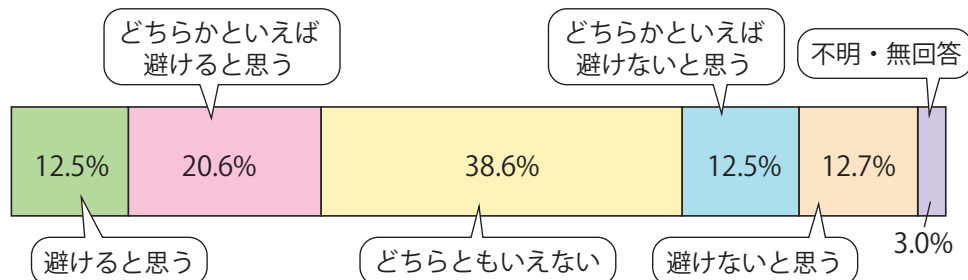
「忌避意識」って何？

～気づきから行動へ～

【2020年度栗東市住民意識調査より】

Q. あなたが住宅を選ぶ際の条件について、あなたはどのように思われますか？

1. 近隣に対象地区がある



約3人に1人は住宅を選ぶ際、近隣に対象地区（被差別部落）があれば避けると答えています。

避けてしまう意識はどうして生まれるのでしょうか？

課題 I

ふたりの会話を聞いてどのような言葉をかけますか？

事例 1

夏休み前の高校生の会話

夏休みの自由研究、部落差別問題にしようと思うんだけどどう思う？



やめとけよ。そんなのに興味持ったらまちがえられるよ。

Blank area for writing a response to the conversation.

事例 2

引っ越しの相談をする夫婦の会話

このマンション、駅から近いし、なかなかの広さでいい物件だよ。



でも、このマンション、〇〇地区にあるんでしょう？ 別のところ考えない？

Blank area for writing a response to the conversation.

2つの事例の共通点は **忌避意識** です

忌避意識とは

忌避意識とは、「被差別部落」や「被差別部落出身者」を避けようとする意識を言います。今日では、忌避意識こそが部落差別を支えている主要な意識だと言われています。よって、部落差別問題を解決するには、この忌避意識の克服が極めて重要です。



なぜ被差別部落に対する忌避意識が生まれるのでしょうか？



世間から被差別部落出身者と見なされて差別されるのではないかという不安から、「差別はいけないことだ」と分かっているにもかかわらず被差別部落出身者との結婚を避けたり、被差別部落の中や周辺に住むことを避けたりします。

現在の差別は、直接的に被差別部落に向けられる差別とともに、「世間」というまわりからの視線を気にした結果、起こってくるケースがあります。

課題Ⅱ

どうしたら忌避意識をなくせるか話し合いましょう



学ぶポイント

忌避意識をなくしていくために

■部落差別問題に対する正しい理解と認識を持ちましょう！

- 「世間」とは自分自身を映す鏡であり、うわさや偏見でつくられた認識が自分自身にもあることを自覚することが大切です。
- 生まれた場所や住んでいるところで人を判断したり、身元調査をしたり、そのことで人の値打は決まりません。
- 自分が差別する側にならないために、不幸な人をつくらないために、人権について正しい知識を身に付け、忌避する意識が差別を生み、自分自身を生きにくくしていることに気づくことが大切です。



栗東市人権擁護都市宣言

人権とは人間が幸せに生きていく権利で、すべての人が生まれながらにもっている基本的な権利です。

わたしたち栗東市民は、日本国憲法や世界人権宣言の理念にのっとり、一人ひとりの基本的人権を永久の権利として尊重し、すべての市民が平等に生きる権利を保障する。

よって、正しい人権意識の高揚に努め、不断の努力と実践により、相互の人権を擁護するため、ここに栗東市を『人権擁護都市』とすることを宣言する。

平成3年3月22日

